

令和2年度 がん教育支援事業「がん教育外部講師派遣事業」報告書

学校等名 長崎市立小ヶ倉中学校

実施日 令和 2年 11月 13日(金) 13:00 ~ 16:00

場 所 小ヶ倉中学校 2F ワークスペース

講座名 がん教育講話

講 師 岡田 雅彦 氏 (みさかえの園あゆみの家副施設長 小児科医)

近隣校への案内 案内先: _____ 計 _____ 校

参加者	児童・生徒 学年 : 3年 (56)人	学校職員 (6)人	保護者 ()人	他校職員等 (3)人	その他 ()人 (65)人
-----	-----------------------------	----------------	-------------	-----------------	------------------------

テーマと内容 「がん教育講話～ちがいについて考える～」
①ちがいがある意味 ②遺伝子の変異 ③がんの知識 ④小児がん ⑤人権について知る

<当日の様子> * 事業の様子等を必ず画像で添付してください。

パワーポイントによる資料、動画、先生の経験による講話をいただいた。

前半は、がんの原因、患者数、予防、健診、治療などのがんの知識、遺伝子の変異、ちがいがある意味について考える時間とし、後半は、先生の経験から小児がんについて考えた。また、「ふつう」「めいわく」「やさしさ」をキーワードとして人権の意味について考えた。

生徒達は、事前指導として視聴した「愛してるよカズ」の主治医の先生の講話を聞くことができるという心構えがあり、真剣に講話を聞く姿が見られた。お礼の言葉には、講話を聞いて感じた思いが多く盛り込まれていた。



<講師からの指導や助言・成果>

がんの知識を知ったうえで、生き方、人権について考えたい。生徒の「がんは感染するのか。」という質問は、大変良い質問であり、感染が原因でがんを発症することはあっても、がんが感染することはないことを理解させることができて良かった。

生徒達は、岡田先生の講話をメモをとりながら、真剣に聞いていた。講話後、教室に戻った生徒達は、なにかストーンと落ちたような表情をしており、日頃の自分を振り返り、なにか答えが見つかったようにもうかがえた。

<今後の取組及び課題> * 今後のがん教育の充実に向けての活用等

今回、がん教育講話を開催するのあたり、事前に生徒、保護者のがん経験の有無を把握したが、完全に把握することは困難だった。講師とは、その旨を事前打合せした。また、事前指導をしたことで、生徒達が講話に関心を持ち、スッと入っていったため、今後の取組みの際にも取り入れたい。

また、教科の授業とも連携しながら、学年の実態に適した内容を検討していきたい。